

平成 22 年度 みんなで支える森林づくり大北地域会議（第 2 回）議事録

1、開催日時 平成 22 年 10 月 20 日（水） 13:00 ～ 16:00

2、開催場所 大町市内の現地及び大町市美麻支所講堂

3、出席者

- ・委員
嶺村和徳、浅見昌敏、川上紀源、香山由人、金原昭和、西條麻梨子、
山内香代子、荒山雅行、菅沢広人
- ・北安曇地方事務所
小須田地方事務所長、中村林務課長、ほか 6 名
- ・報道関係
大糸タイムズ
- ・一般傍聴
なし

4、内容

（1）現地検討

1）木育推進事業予定地【もみの木・こぶし保育園(仮称)】（林務課 春日主査より説明）

「事務局（中村林務課長）」

現地において、何か質疑ございますか。

「浅見委員」

合法木材使用を徹底してほしい。

「浅見委員」

子供たちが、木材に触る機会が増えるので、こういう形で森林税を活用するのはいいこと
だと思う。

「山内委員」

遊具も、木材を活用したものにすればいいのでは？

「事務局」

端材等を活用して、遊具を検討したい。

「香山委員」

燃料を地元の木を使用する物を考えてほしい。

「事務局」

燃料は灯油とガスで考えている。子供なのでペレットは危険であると判断して導入を検討
したが諦めた。

「香山委員」

暖房施設を更新する時に、チップボイラー導入を検討してほしい。

「金原委員」

使用している樹種（スギ、ヒノキ等）を表示する事はできないか。

端材にヒノキとか書いて遊具に活用するとか、看板に木材を使うとか検討してほしい。

2) 森林整備事業地（大町市美麻二重向団地）（林務課 春日主査より説明）

「事務局（中村林務課長）」

何か質疑ございますか。

「事務局（中村林務課長）」

特にないようですので、室内検討会場へ移動いたします。なにかございましたら室内検討の際にご意見ください。

(2) 室内検討会議

1) 開会

神田 林務課長補佐進行

2) あいさつ

小須田 北安曇地方事務所長

・ただ今、ご紹介いただきました北安曇地方事務所長の小須田幸一でございます。よろしく願いいたします。

本日は、第2回目の「みんなで支える森林づくり大北地域会議」にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

先ほどは、本年度の「森林税活用事業」の進行状況ということで、大町市の「木育推進事業の保育園の建設現場」や「森林整備事業の団地」におきまして、熱心な議論をいただきありがとうございました。

引き続き、室内での検討ということで、お疲れのところと思いますがよろしくお願い致します。

今年度も、「長野県森林づくり県民税」を活用した、様々な事業を推進させていただき、これまで手が入らず荒廃が進んでいる里山が整備されるなど、実際に目に見える形で成果が出てきているところです。

本日の会議では、この「森林税活用事業」の現地検討や事業の執行状況の報告を踏まえた形で、委員の皆さまからの幅広いご意見を頂き、今後の森林税活用事業に反映させたいと思います。

また、長野県の森林づくりに関する総合的・長期的な目標や施策の基本的事項を定める「森林づくり指針の案」がこの度とりまとめられました。

この地域会議からも、この「森林づくり指針の案」について意見を提出する事となっております。

様々な角度からご検討をいただき、11月の成案に反映させたいと思いますので、忌憚のないご意見を頂ければ幸いに思います。

本日は、「森林税活用事業」及び「森林づくり指針改定」の検討になります。現場検討に引き続き、会議で大変お疲れのところですが、なにとぞよろしくお願い致します。

3) 議事

ア、森林税活用事業の執行状況 (稲村普及林産係長より説明)

イ、森林づくり指針の改定について (中村林務課長より説明)

「浅見座長」

お手元にある「会議次第」に沿って進めたいと思います。それでは、アの森林税活用事業の執行状況について、事務局より説明をお願いします。

「事務局」(稲村普及林産係長)

ア、森林税活用事業の執行状況について、資料 - 1 他により説明

「浅見座長」

それでは、森林税活用事業の執行状況についての説明や現地検討でのご意見をお願いします。

「香山委員」

森林税導入され3年間で“荒廃している森林整備”及び“野生鳥獣対策の森林整備”という形で、急速に事業を推進し緊急的な部分は終わったと思います。

今後は、次の目標を設定し質を問わなければならないと思います。目標に向かって森林税を活用しているとうアピールを行い県民の皆様にご理解いただくことが重要だと思います。

目標をもってアピールする折り返し点だと思うので、次のステップを検討してほしい。

「事務局」(中村林務課長)

地域の皆さんに森林整備の効果は浸透していると思います。ここ数年は予算的な措置もあり、地域要望にこたえる形での事業導入で進んできたが、国の事業仕分で予算削減されたところであり、森林施業も費用を掛けずに効果が出る方法を工夫しながら実施しなければいけないと考えております。

「山内委員」

野生動物と共存する環境を作るための森林税活用という視点も必要と思う。奥山では野生動物が生息できる森林づくり、里山は木材を利活用できる森林づくりをする。そういう形で県民が恩恵を受ける森林づくりのため、森林税を活用しているアピールが必要と考えますがどうでしょうか。

「事務局」(中村林務課長)

森林税導入の経過は、間伐の手遅れ林分が多いので、クシヨンプランを作成し間伐を推進し、木を育てることが、県民益に繋がるという観点で進んできた。次回の森林税の中には山内委員さんからの提案があったアピールの仕方も検討する必要があると思います。

「浅見座長」

森林所有者が森林を所有する意欲を持たせることが重要である。将来的な見通しを考えながら、森林資源の価値が上がり利益を得られるようになると森林所有者にアピールしていく事が必要ではないか。

「事務局」(中村林務課長)

将来的に木材の需要が高まった時に、良質な木材を生産できるように森林整備を進めている。長いスパンで循環して資源活用できると分かり易くアピールすることが重要と考えている。

「香山委員」

森林税で林業事業者は仕事が増えたが、自ら山づくりをしている森林所有者へのメリットはあまりない。また、山に関りのない一般県民に何が還元されたか見えていない。特に都市部の人には全く見えてこないなので、何が還元されているか明らかにした方がいいと思う。

「事務局」(中村林務課長)

都市部の人と山間部の人では、受入れる感覚が違うので伝わりづらい部分はあるが、森林は空気や水と一緒に必要不可欠なものであり、社会的な共通資本であるという概念が伝わりづらいものであるので、知恵を絞りながらアピールする方法を考えていきたい。

「浅見座長」

森林所有者の皆さまも居られますので何かご意見どうでしょうか。

「荒山委員」

補助金を頂いて有難い、自営で林業経営している立場として、今の木材価格では人を雇用して林業経営を出来る状況ではない。一人で営業活動から山の手入れまでしなければならないので、将来的には林業経営者が自立できるように、多角的にフォロー頂ければありがたい。

「山内委員」

都市部の人を含め利用につながる仕組みづくりが必要である。木材をエネルギー資源として活用する仕組みのアイデア募集などの、新しい発想を検討するための森林税活用も考える必要があると思う。

また、不在地主の林分も公共としての森林と位置付けて、森林税を入れてモデル的に整備していく体制づくりが必要と思う。

「事務局」(中村林務課長)

新しい発想を検討するために森林税活用については、今後の課題として行きます。

不在地主等の問題については、いつも議論されるところです。時間を掛けて検討して行く問題と認識しています。

「菅沢委員」

木材の価値が安いので、自力で経営するのは大変であるので、循環するような形を整えてほしい。

森林税導入により、山が整備され大変感謝しています。しかし、まだまだ間伐する場所は終わっていないので引続き重点的に行ってほしい。

「事務局」(中村林務課長)

間伐を推進しながら、全体的な工夫もしていきたいと思えます。

「浅見座長」

時間の都合もありますので次に進みたいと思えます。「会議次第のイ、森林づくり指針の改定」についてですが、第1回目の会議でも議論しました。その後、検討を重ね、11月に予定されている長野県議会において改定報告する段取りで進んでいます。

現在は2回目の意見募集期間であり、当地域会議としても意見提出が求められているところです。「森林づくり指針」に意見を言える最後の機会となろうかと思えますのでよろしくお願ひします。それでは事務局から説明をお願いします。

「事務局」（中村林務課長）

イ、森林づくり指針の改定について、資料 - 2により説明

「浅見座長」

有難うございました。それではご意見をお願いします。

「山内委員」

この冊子をどんな形で配布する予定ですか。

「事務局」（中村林務課長）

ダイジェスト版を作成して広める予定です。

「山内委員」

図式の方が分かりやすいので、イメージ図で配られた方が分かり易いと思います。

地域別のイメージ図を用いた、地域版を作成し広く配布したほうが伝わり易いと思います。

「事務局」（中村林務課長）

ダイジェスト版は県で作成するが、地域版は、北安曇地方事務所で作成することになると思います。

「香山委員」

ダイジェスト版は、議論せず作成する事になるので、どんなダイジェスト版になるか若干抵抗があります。

「浅見座長」

大北地域の木材産業に携わる状況下で発展的に「森林づくり指針（案）P 2 1」に掲載されているように出来ることはないです。なぜそうなったかと言うと、地元から木材を購入して製材し、地元の工務店に売られる流れを長く続けてきて何とかやってきたということです。この地域が特殊な木材産地ではないこともあり、この地域材を用いて他地域へ売って出ようという意欲がなかった。

これからの予想ですが、木材需要が増えると考えられるので、この地域の在来木材従事者以外の方が、新しい形で木材産業を起こす可能性はある。そういう経過を踏めば、この地域にまた木材産業が発達する可能性がある。

木材産業は絶対に無くならないが、安定的に経営して行く事を考えると、中信地域全体の中で間伐材利用の環をつくり参画して行く事がいいと思います。

「事務局」（中村林務課長）

この地域の木材産業を発展させることにより循環が機能する事になる。この指針に掲載されているように 50 年後、100 年後に循環する体制を目指したい。

「香山委員」

この地域は高齢化が進んでいて人口が減少している。特に山間部は人がいなくなりそうな状況である。

木材産業への新規参入者が増えると雇用を生み出せるので、山間部の多いこの地域では、今後発展させるべき重要な産業である。

「浅見座長」

中信木材市場へ集まるヒノキは東海木材市場へ行き、美濃のヒノキと一緒にいる。原産地が

大北であっても、製材になったら“東濃ひのき”とかになってしまう。一番材木を購入しているのは東海の業者である。

「香山委員」

丸太を購入するのは、商社が購入している。商社が購入し向こうの市場で販売し向こうの製材業者が製材して販売している。

「山内委員」

川上村の学校が地域材を使用して素晴らしいので、大北地域の建物はどういうものを作っていくのか長いビジョンで進めていただきたいと思います。

県がリーダーシップを取って進めてほしい。

「事務局」（中村林務課長）

そういう夢を持った事業を展開できるように考えていきたい。

「浅見座長」

子供たちが木に親しみを感じ続けられるように、木に触れさせる事が重要であると思う。

「事務局」（中村林務課長）

森林づくり指針のツイッターでの意見を紹介する形で説明した。

「香山委員」

行政サイドで森林に対する議論検討が進んだので、今後は、民間サイドでの議論検討の場が必要であると思う。

「浅見座長」

よろしいでしょうか。全体を通して何かありますか。

それでは、本日の議事はこれで終了させていただきます。

委員の皆さまの協力が無事、進めることができました。ありがとうございました。

「神田課長補佐」

浅見座長、円滑な議事進行ありがとうございました。それでは、以上をもちまして「みんなで支える森林づくり大北地域会議第2回」を閉会します。

本日は、ありがとうございました。



現地検討

木育推進事業地

【もみの木・こぶし保育園
(仮称)】



現地検討

森林整備事業地

【大町市美麻二重向団地】



市内検討

- ・ 森林税活用事業の執行状況
- ・ 森林づくり指針の改定について